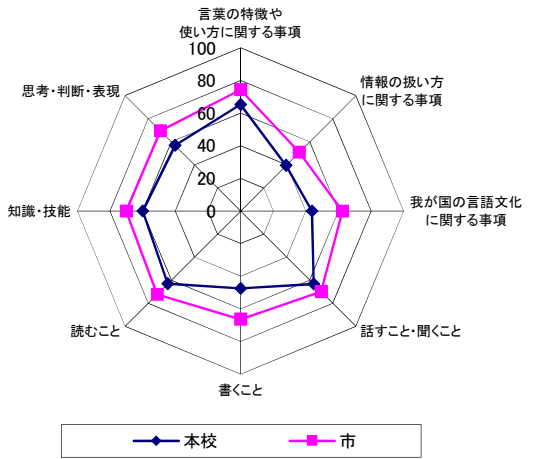


宇都宮市立横川西小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

|     |                  | 本年度  |      |      |
|-----|------------------|------|------|------|
|     |                  | 本校   | 市    | 参考値  |
| 領域別 | 言葉の特徴や使い方にに関する事項 | 65.2 | 74.3 | 74.8 |
|     | 情報の扱い方にに関する事項    | 39.4 | 50.9 | 48.4 |
|     | 我が国の言語文化に関する事項   | 43.8 | 62.4 | 60.8 |
|     | 話すこと・聞くこと        | 63.3 | 69.9 | 69.7 |
|     | 書くこと             | 47.5 | 66.4 | 64.6 |
|     | 読むこと             | 63.1 | 72.3 | 71.0 |
| 観点別 | 知識・技能            | 60.0 | 70.1 | 70.0 |
|     | 思考・判断・表現         | 56.9 | 69.5 | 68.2 |
|     |                  |      |      |      |
|     |                  |      |      |      |

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

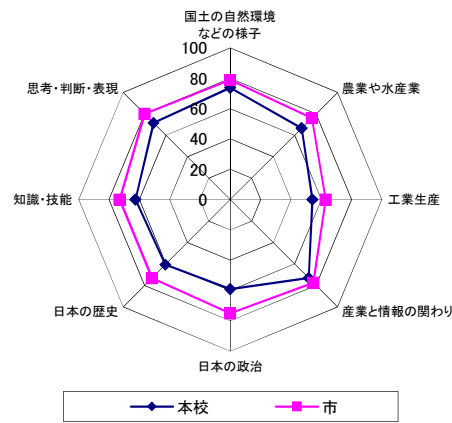
| 領域                   | 本年度の状況                                                                                                                                                                                                                           | 今後の指導の重点                                                                                                            |
|----------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 言葉の特徴や<br>使い方にに関する事項 | 平均正答率は市を下回っている。特に、漢字の書きが低い。<br>○尊敬語については、市の平均とほぼ同じ数値である。<br>●文脈に沿った漢字を適切に使う問題では市の平均よりも15ポイント下回っている。<br>○漢字の読み書きでは、市の平均を上回る設問もあった。敬語の使い方にに関する問題では市の平均を上回ったり、正答率が8割を超えたりしている。<br>●2段落構成で文章を書く問題では、市の平均を24.2ポイント下回り、正答率も50%を下回っている。 | ・5、6年生で習った漢字について、読みを音読させたり、AIDリルを活用して繰り返し学習させたりして、確実に漢字の基礎基本を定着させる。<br>・習った漢字を使って文章を書いたり、様々な文章を読んだり、試写したりする経験を積ませる。 |
| 情報の扱い方<br>に関する事項     | 平均正答率は市を下回っている。<br>●目的に応じて簡潔に書く問題が市よりも10.2ポイント低い。                                                                                                                                                                                | ・資料を読み取るだけでなく、提示された条件の中でどのように考えをまとめる経験を数多く積ませて慣れさせる必要がある。<br>・複数の資料を読み取り、それぞれの資料から分かったことを考えることに慣れさせる。               |
| 我が国の言語文化<br>に関する事項   | 平均正答率は市を大きく下回っている。<br>●漢字の由来に関する問題では、市の平均を18.6ポイント下回り、正答率も50%を下回っている。                                                                                                                                                            | ・漢字の成り立ちや由来について授業の中で話題にしたり、調べる機会をつくらせる。                                                                             |
| 話すこと・聞くこと            | 平均正答率は市を下回っている。<br>○話の内容をとらえる問題では市の平均を上回った。<br>●司会者の役割を理解し、どのように発言したらよいか答える記述式では、正答率が非常に低かった。<br>○提案に対して反対した理由を選択する問題では、正答率が98.8%と高く、市の平均を上回った。<br>●話し合いを適切に進めるための司会者の発言内容を考える問題では、正答率が13.8%と低く、市の平均を11.6ポイント下回っている。             | ・話し合いの進め方やそれぞれの立場や役割を学びつつ、学級活動なども活用して、話し合いの経験を積ませる。                                                                 |
| 書くこと                 | 平均正答率は市を大きく下回っている。<br>●事実を基に自分の意見を書く問いでは、市の平均よりも約30点下回っている。<br>○文章の内容に合う資料を選択する問題では、正答率が86.3%と高くなっている。<br>●資料を基に文章を書く問題では、正答率を10ポイント以上下回っている。また、無回答の割合が25%となっている。                                                                | ・国語の学習だけでなく、理科の実験や社会の資料を読み取りなど色々な場面で、自分の考えを書く活動を取り入れる。                                                              |
| 読むこと                 | 平均正答率は市を下回っている。<br>○文章全体の構成を捉える問題では全国正答率を上回った。<br>●説明文の読み取りについては、全ての項目で市の平均を下回っている。<br>○物語の登場人物の心情や行動を読み取る問題や説明文の構成を捉える問題では、市の平均と同等の正答率となっている。<br>●説明文の論の進め方を捉える問題では、正答率が53.8%と、市の平均を21.2ポイント下回っている。                             | ・文章の構成や論の進め方を考えさせた上で、提示された条件に沿って問題を答える経験を積ませる。                                                                      |

宇都宮市立横川西小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

|     |              | 本年度  |      |      |
|-----|--------------|------|------|------|
|     |              | 本校   | 市    | 参考値  |
| 領域別 | 国土の自然環境などの様子 | 73.8 | 78.9 | 75.4 |
|     | 農業や水産業       | 66.7 | 76.1 | 71.2 |
|     | 工業生産         | 54.2 | 62.9 | 59.4 |
|     | 産業と情報の関わり    | 73.1 | 77.6 | 59.7 |
|     | 日本の政治        | 59.1 | 75.0 | 79.3 |
|     | 日本の歴史        | 60.6 | 73.1 | 72.8 |
| 観点別 | 知識・技能        | 62.5 | 73.0 | 71.4 |
|     | 思考・判断・表現     | 71.6 | 79.8 | 71.9 |
|     |              |      |      |      |
|     |              |      |      |      |

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

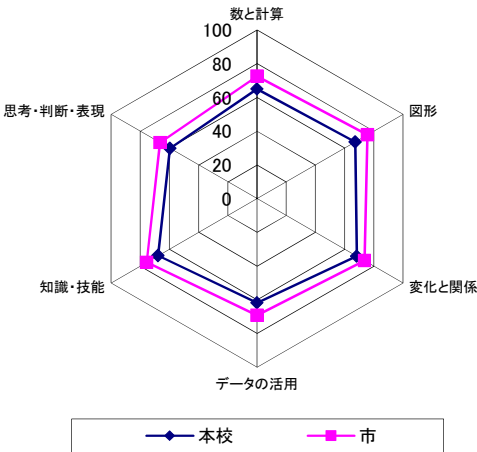
| 領域               | 本年度の状況                                                                                                                                                                                                                                                                                                | 今後の指導の重点                                                                                                                                                                                                                                     |
|------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 国土の自然環境<br>などの様子 | 平均正答率は市を下回っている。<br>○日本の地形の名称と位置に関する活用問題は、市の平均正答率を4ポイント上回っている。<br>●海洋名や外国に関する知識問題は、市の平均正答率を下回っている。<br>●市の平均正答率に比べ、この領域の本校の正答率は5.1ポイント低い。日本の国土周辺の海洋名や中国の国旗や位置などについての理解率が低い。<br>○地図を日本の主な地形の名称と位置の理解から読み取る問題では、市の平均正答率を上回っている。<br>○津波から生活を守る取り組みについての理解は市の平均正答率に達している。<br>●天然林と人工林についての理解を問う問題の正答率が低かった。 | ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの<br>・日本周辺の海洋や日本の主な地形の名称と位置の理解ができるように繰り返し復習し、基礎の定着を図る。<br>・47都道府県の位置を正確に覚えられるように白地図等を利用して復習する。<br>・日本の国だけでなく、周辺の国についての理解を深められるような指導を工夫していく。既習の知識を基に地図を読み取ることができているので、知識理解が深まるようにしていきたい。<br>・他の教科とのつながりを意識しながら指導をしていく。 |
| 農業や水産業           | 平均正答率は市を下回っている。<br>○農業に関する基礎的な資料の読み取りの問題は、市の平均正答率を上回っている。<br>●農業や水産業の資料の活用問題は、市の平均正答率を下回っている。<br>●市の平均正答率に比べ、この領域の本校の正答率は9.4ポイント低い。<br>○日本の農業人口をめぐる問題について資料を読み取る問題は市の平均正答率を上回っている。<br>●表を読み取り、白地図にまとめる問題の正答率が大きく下回った。                                                                                 | ・日本の食料自給率に関連させて農業や水産業を身近なものとして捉え関心をもてるようにする。<br>・グラフを読み取る力に比べ、白地図にまとめる力を高めることが課題である。作図する機会を増やし、習熟を図る。                                                                                                                                        |
| 工業生産             | 平均正答率は市を下回っている。<br>●貿易に関する資料の読み取り問題は、市の平均正答率を下回っている。<br>●市の平均正答率に比べ、この領域の本校の正答率は8.7ポイント低い。<br>●資料を読み取る問題の中でも、絵やグラフを読み取る問題に比べ、地図を見て読み取る問題の正答率が低い。                                                                                                                                                      | ・身の回りには様々な工業製品があることを意識できるよう、授業や日常生活の中で話題として取り上げ、関心を高めるようにする。<br>・地図にふれる機会を増やし、授業の中で活用する場を多く設ける。的確に情報をつかむ力を高めるような指導を行う。                                                                                                                       |
| 産業と情報の関わり        | 平均正答率は市の平均を下回っている。<br>○自然災害についての知識問題は、市の平均正答率と同じで、全国正答率を上回った。<br>●森林に関する知識問題は、市の平均正答率を下回っている。<br>●市の平均正答率に比べ、この領域の本校の正答率は4.5ポイント低い。平均には届かなかったが比較的に近い正答率であった。                                                                                                                                          | ・視聴覚教材等を活用して、森林への関心を高め、理解を深めることができるようにする。<br>・インターネットやコンビニエンスストアなどの身近な問題であったため、理解できている児童が多い。日常の様々な事象と社会科のつながりを意識させた指導を行う。                                                                                                                    |
| 日本の政治            | 平均正答率は市を下回っている。<br>●日本国憲法の三原則についての知識問題は、市の平均正答率を大きく下回った。<br>●市の平均正答率に比べ、この領域の本校の正答率は15.9ポイント低い。日本国憲法の三原則や非核三原則、国会や裁判の仕組みについての正答率が低い。                                                                                                                                                                  | ・国会や内閣に関するニュース、身近な市や県の選挙などの話題を取り上げることで、興味関心をもって学ぶことができるようにしていく。<br>・政治についての知識や情報に多くふれることができるように日常的に話題にする。<br>・調べ学習などの時間を多く取って、自分でまとめることにより知識理解につながるようにしていく。                                                                                  |
| 日本の歴史            | 平均正答率は市を下回っている。<br>●元寇についての知識を基にした資料の活用問題は、市の平均正答率を大きく下回った。<br>●市の平均正答率に比べ、この領域の本校の正答率は8.2ポイント低い。知識理解、資料の読み取りともに課題が見られる。                                                                                                                                                                              | ・歴史的な出来事や活躍した人名などを関連させることで、時代ごとの特徴を正しく把握できるように支援する。<br>・歴史に関する興味関心の高い児童は多いので、歴史的事象の知識理解が深まるような指導を工夫していく。用語を授業でも丁寧に確認していく。                                                                                                                    |

宇都宮市立横川西小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

|     |          | 本年度  |      |      |
|-----|----------|------|------|------|
|     |          | 本校   | 市    | 参考値  |
| 領域別 | 数と計算     | 65.0 | 72.6 | 73.1 |
|     | 図形       | 67.3 | 75.7 | 74.7 |
|     | 変化と関係    | 68.3 | 73.6 | 66.1 |
|     | データの活用   | 61.9 | 69.2 | 70.7 |
|     |          |      |      |      |
| 観点別 | 知識・技能    | 67.7 | 75.5 | 74.4 |
|     | 思考・判断・表現 | 59.7 | 66.5 | 67.2 |
|     |          |      |      |      |
|     |          |      |      |      |

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。  
(算数では本市独自の設問が含まれるため、参考値は全設問に対応した値ではない。)



★指導の工夫と改善

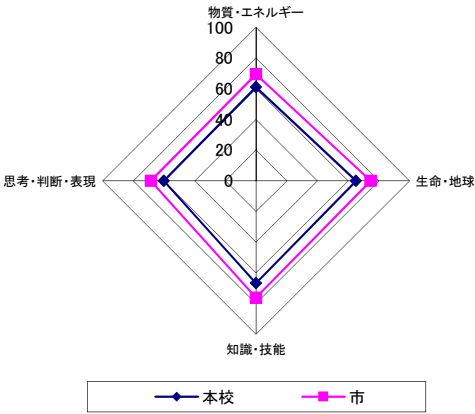
| 領域     | 本年度の状況                                                                                                                                                                     | 今後の指導の重点                                                                                                                                                                  |
|--------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 数と計算   | 平均正答率は市を7.6ポイント下回った。<br>○小数第一位×小数第一位の計算では市の正答率を上回り、分数÷分数(約分あり)の計算では市の平均と同等であった。<br>●2つの文字を使って表された式について、一方の文字の値から他方の文字の値を求める問題では正答率が50%を下回り、市の平均を15.6ポイント下回った。              | ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの<br>・基礎的、基本的な計算の習得のために、朝の学習の時間の計画的な活用や毎日の宿題を通して繰り返し計算問題に取り組ませる。<br>・習熟度別学習を生かし、基礎基本の定着を図ったり、発展的な問題に取り組んだりするなど、個に応じた指導の充実を図る。                      |
| 図形     | 平均正答率は市を8.4ポイント下回った。<br>○合同な三角形を作図する問題の正答率は市の平均を4.8ポイント上回った。<br>●高さが図形の外にある平行四辺形の面積を求める設問の正答率は市の平均を17.3ポイント、三角形の内角の和が180°であることを理解し2つの角が与えられた三角形の1つの外角を求める問題では15.5ポイント下回った。 | ・平行四辺形や三角形、台形などの面積を求める公式を定着させるため基本的な問題に繰り返し取り組ませる。また、高さが図形の外にある図形など多様な問題にも取り組ませていく。<br>・合同な三角形を作図するための3つの条件で繰り返し作図に取り組ませ、どの条件でも作図できるようにさせる。三角形の内角、外角を求める多様な問題に取り組ませ習熟を図る。 |
| 変化と関係  | 平均正答率は市を5.3ポイント下回った。<br>○表から面積と人数の割合を求め、どの公園が混んでいるかを考察する問題の正答率が市の平均とほぼ同等だった。<br>●速さの単位の関係を理解し、分速を秒速や時速に直す問題の正答率は市平均を9.4ポイント下回った。                                           | ・単位量あたりの大きさの「速さ」の問題については特に個人差が大きいと考えられるので、習熟度別学習を生かし個に応じた学習の充実を図り、児童が理解できているかどうかを確認しながら丁寧に指導をしていく。                                                                        |
| データの活用 | 平均正答率は市を7.3ポイント下回った。<br>○円グラフを読み取る問題では、市の正答率をやや上回った。<br>●ドットプロットから最頻値を読み取ったり、度数分布表を完成させたり、代表値を用いて一人の記録がクラスの半分より高い記録かどうかを考えたりする問題ではどの正答率も市の正答率より下回っている。                     | ・平均値、最頻値や中央値など代表値について、求め方や結果の読み取り方などの理解と定着を図るようにする。<br>・理由を口頭で説明することや文章で記述する学習を授業の中に積極的に取り入れていく。                                                                          |
|        |                                                                                                                                                                            |                                                                                                                                                                           |
|        |                                                                                                                                                                            |                                                                                                                                                                           |

宇都宮市立横川西小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

|     |          | 本年度  |      |      |
|-----|----------|------|------|------|
|     |          | 本校   | 市    | 参考値  |
| 領域別 | 物質・エネルギー | 61.1 | 69.3 | 65.7 |
|     | 生命・地球    | 65.2 | 74.7 | 77.8 |
|     |          |      |      |      |
|     |          |      |      |      |
| 観点別 | 知識・技能    | 66.8 | 76.2 | 76.4 |
|     | 思考・判断・表現 | 60.1 | 68.7 | 68.6 |
|     |          |      |      |      |
|     |          |      |      |      |

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

| 領域       | 本年度の状況                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    | 今後の指導の重点                                                                                                                                                                                                     |
|----------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 物質・エネルギー | 市の平均正答率を下回っている。<br>○ふりこのきまりの「1往復する時間の求め方」については、市の平均を8.9ポイント上回っている。ふりこの実験の仕方については基本的な内容は理解できている。<br>●ものの燃え方の「空気に含まれている気体で物を燃やす働きがないものを理解する」問題については、市の平均を18.9ポイント下回っている。気体の種類によるものを燃やすはたらきの違いについて、理解することに課題が見られる。<br>●物の溶け方の「ものが水に溶けて透明になった液のことを『水溶液』ということを理解する」問題については、市の平均正答率を25.2ポイント下回っている。水溶液とは水にものが溶けた液のこと」という定義を押さえておく必要がある。<br>●ふりこのきまりの「実験を計画することができる」問題については、市の平均正答率を18.6ポイント下回っている。ふりこの運動の変化とその要因を関係づけて考察することに課題がある。                                                             | ・ものの燃え方については、ろうそくが燃える前と後で酸素と二酸化炭素の割合の変化を再度比較させたり、石灰水の白濁を見せたりして、その変化を確認させる。<br>・水溶液とは水にものが溶けた液のこと。溶かした物が全体に広がり、すき通っていること、色がついた水溶液もある」という定義につなげ合わせて押さえておく。<br>・「変える条件は一つだけ」という条件統一の技能が習得できるようにする。              |
| 生命・地球    | 市の平均正答率を下回っている。<br>○動物のからだのつくりとはたらきの「唾液の働きの水の温度」の問題については、市の平均正答率を4.4ポイント上回っている。唾液のはたらきを調べるときの条件については基本的な内容は理解している。<br>○天気の変化の「台風の動き方」については、市の平均正答率を3.7ポイント上回っている。<br>●植物のつくりとはたらきの記述問題については、市の平均正答率を12.9ポイント下回っている。日光と葉のでんぷんについて実験結果から考察する力に課題が見られる。<br>●生物と環境の「生物が取り入れたり出したりする気体の流れを理解する」問題については、市の平均正答率を16.7ポイント下回っている。酸素や二酸化炭素が、植物や動物の体を出たり入ったりしていることの理解が不十分である。また、問題文を正しく読んで答える必要がある。<br>●生物と環境の「月の太陽」の問題で、「月が輝いて見える理由を理解する」問題は、市の平均正答率を24.9ポイント下回っている。月の見え方が変化する理由について理解が不十分な点が見られる。 | ・動植物の空気や水を通した関わりを捉えられるように、教科書の資料などを基に具体的な例を紹介する。<br>・「月と太陽」の問題については、月の位置が変わると、月の形の見え方が変わることや、その仕組みについて、教科書巻末「月の満ち欠けモデル」を使った活動を通して理解させる。<br>・日光を当てたことによって、ヨウ素液に反応した葉やヨウ素液に反応したジャガイモを観察し、日光と養分について考えられるよう支援する。 |
|          |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |                                                                                                                                                                                                              |
|          |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |                                                                                                                                                                                                              |



## 宇都宮市立横川西小学校

### 学力向上に向けた学校全体での取組

#### ★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

| 重点的な取組                        | 取組の具体的な内容                                                                                            | 取組に関わる調査結果                                                                                                                                              |
|-------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 授業において、学習のめあてに沿った、まとめと振り返りの累積 | どの教科においても、授業の始めにめあてを提示し、学習に対する児童の意欲を高め、見通しをもって授業に臨めるようにした。また、振り返りについては、本時のめあての達成状況などを自分の言葉で振り返らせている。 | 6年生は、国語の言葉の特徴や使い方の領域において、市の平均を上回る設問もあった。しかし、事実を基に自分の意見を書いたり、資料を基に文章を書いたりする問題では、無解答率が高くなっている。                                                            |
| 家庭学習の定着を図るための工夫               | 3～6年生に、「家庭学習のヒント集」を配付し、自分で計画を立てて自主学習に取り組むように指導している。また、家庭学習強化週間を5月、7月、9月、11月に設け、家庭学習の習慣化を図ってきた。       | 1～2年生は、「宿題はきちんとやっていますか」に肯定的に回答した児童の割合は93%以上である。3～6年生では、「宿題はきちんとやり、期限までに提出している」に肯定的に回答した児童の割合は87%以上だが、自ら取り組む態度に関わる「自分で計画を立てて、家庭学習に取り組んでいる」は46%～66%程度である。 |

#### ★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

・4～6年生は、国・県・市の調査ともに、国語・算数・理科において正答率が市の平均に達しておらず、特に記述式の設問では無解答も多い傾向があり、「書くこと」に苦手意識をもっている児童が多いと考える。書く活動を国語の授業だけでなく他教科や行事などとも関連付け、時間を確保し目的意識をもって取り組むとともに、自分の考えをもち、表現する機会を計画的に取り入れていく。

・国・市の調査ともに「家で宿題をしている」「宿題はきちんとやり、期限までに提出している」の肯定割合は87%以上だが、自ら取り組む態度に関わる「自分で計画を立てて、家庭学習に取り組んでいる」は、学年によってばらつきが見られる。児童が進んで課題や自主学習に取り組めるよう、学習意欲を育てる授業展開と家庭学習の課題の工夫に努める。